

海蔵あくら



四日市市立海蔵小学校
校長室 だより
令和5年 10 月 26 日
第6号
文責 校長 柳川 洋史

リレーバトン

2 学期は、全校行事も学年行事も多く、一人ひとりにとって貴重な宝物となる経験になることも多いと思います。遠足、社会見学、運動会、自然教室、修学旅行、走ろう会…それぞれ大事にしてほしいと願っています。

「この行事は、得意なことや好きなことではないから、宝物となる良い思い出はない」と言う人もいるかもしれません。しかし、宝物は、良い思い出ばかりではないと思います。

ある年の6年生、Aさんに、このような出来事がありました。

Aさんは、学年でのクラス対抗リレーで失敗しました。

一位でバトンをもらったのですが、転んでしまい、最下位でバトンを次の選手に渡したのです。遠くで見えていても、泣いているのがわかりました。



お昼になり教室へ戻るときに、Aさんの保護者の方も、心配で見に行こうか、声をかけようか、と非常に迷ったそうです。しかし、親として今はその時と場所ではない、と思い留まったそうです。

後でわかってきたことなのですが、Aさんは、やはり教室へは戻りづらく、途中の木の茂みの中に隠れていたそうです。すると4年生の弟が、兄の様子を気にしていたのでしょう。隠れるところを見ていて、様子を見に行ったそうです。6年生の兄としては、その状況を弟に見られるのは格好悪いので「大丈夫」と、から元気を出して教室に戻りました。

運動会後、保護者の方が家で待っていたら、Aさんは元気に友だちと帰ってきたそうです。教室で友だちに優しくしてもらえたのか、励まされたのか、何があったのかは話さなかったそうですが、いつもの顔をして帰ってきたそうです。

Aさんは、もう大人になって就職し、会社員になっていますが、その時のつらい思い出も、やっぱり今の自分には宝物だと保護者に話したそうです。苦しい時、悩んだ時、人生に役立っているとのこと。

様々な経験を重ねる中で、勝ったり負けたり、喜んだり悔しがったり、成功したり失敗したり…時には精いっぱい努力を重ねたことでも思うような結果にならなかったり…その過程で、自分自身で何を感じ心の中に育ませていくのか。私たち大人も、何を大切に子どもたちに接したり見守ったりしていけばいいのか。常に考えていかなければならないことなのではないでしょうか。

Aさんのように、嫌な思い出もつらい思い出も、どのような経験でも自分次第で宝物にできると思います。今年の海蔵小運動会、その学年だからこそという経験をして、それぞれに宝物ができることを願っています。